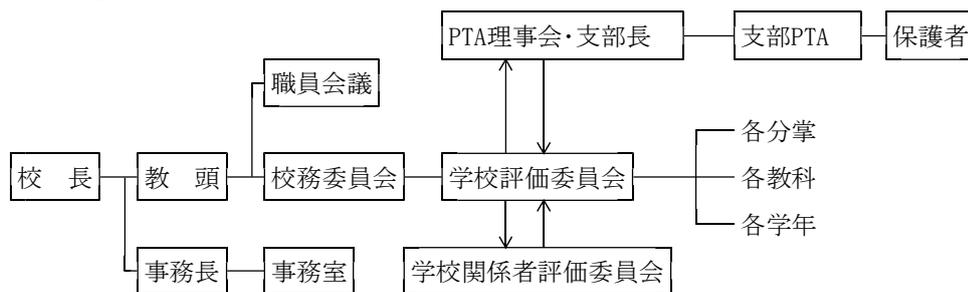


8 学校評価

(1) 学校評価のための組織



(2) 学校評価の年間計画

月	評価委員会等	PTA理事会・支部長会	生徒	保護者
4月	①本年度重点目標提示(校長) ②各分野で本年度重点目標設定 ③具体的方策の策定 ④評価規準・基準の設定 ①評価方法と結果の公表方法 検討		重点目標提示 (分掌主任講話)	
5月	上記①～⑤のまとめ	重点目標提示 (PTA総会) ・支部総会で意見聴取 ・支部長会でまとめ		重点目標提示 (PTA総会・HP)
6月	評価項目検討 (自己評価・外部評価)			
7月	評価アンケートの集計		評価アンケートの 実施	重点目標提示 (1,2,3年保護者会) 重点目標案内 (PTA広報誌)
8月	中間評価の実施(分掌) 計画の修正(分掌)			
9月	中間評価・計画の修正提示		計画修正の提示	中間評価の公表 (本校HP)
11月	評価アンケート作成・実施	評価アンケート実施 (理事会で実施)		評価アンケート実施 (PTA理事会)
12月	評価アンケート集計		評価アンケート 実施	
1月	評価アンケート分析 年度末自己評価の検討			
2月	学校関係者評価委員会の開催 →外部評価の実施 最終評価まとめ 次年度への課題及び次年度行動 目標の検討	年度末自己評価提示 (PTA理事会)	年度末自己評価 提示	
3月	次年度行動目標の策定		次年度行動目標の 提示	最終評価公表 (本校HP) 最終評価案内 (PTA広報誌)

(3) 令和3年度の学校評価

本年度の重点目標	西高の3年間の学びや活動で、将来的に、大学やその後の社会生活で生きてくる力や素地を身に付ける。 ⇒魅力ある教育活動の追求 ○ 確かな学力を育む ○ 主体性、創造性を確立する ○ 自他尊重の心を育む		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
多忙化解消	在校時間の目標 1箇所45時間 1年360時間	・ 定時退校日・学校閉庁日の設定 ・ 年休取得の促進 ・ 行事・業務の精選・教職員全員の参画	・ 定時退校日・閉庁日を遵守し在校時間の低減を促進する。 ・ 在校時間等の状況記録の集計結果等を安全衛生委員会等で確認し教職員の健康障害防止に努める。 ・ 行事のスリム化と充実を図る。 ・ 決裁や資料の簡略化に努める。 ・ 役割分担を明確にし、全員で協働して取り組む。
ICT活用 (ネットワーク担当) (生徒指導) (各教科会)	安全なネットワーク環境の構築と授業等での活用	・ 現職研修の活用 ・ BYODの円滑な導入に向けた校内体制の構築	・ 教科の特性に応じたICT機器の効果的な利用法について情報共有を図る ・ 情報端末のルール作りに取り組み、安全なネットワーク環境を構築する
学校行事 (総務部) (生徒指導部) (各学年会)	P.T.Aとの連携の強化	・ P.T.Aとの情報交換・情報発信の充実 ・ P.T.A活動の主体的な取組への支援強化	・ P.T.A活動の啓発に際して、きずなネット・HPを活用し、文書とともに発信していく。 ・ P.T.Aの主催行事への出席者が増えるよう、ニーズに対応した内容の研修会を企画運営する。きずなネット・HPでも広報活動をより活発におこなう。
学習指導 (教務部) (進路指導部) (各教科会) (各学年会)	学習意欲の喚起	・ 3年間を見通した教科シラバスの積極的活用 ・ 授業の充実、授業改善 ・ 意欲の喚起、家庭学習習慣の定着 ・ 校内外の様々な学習の機会の積極的活用	・ シラバスの説明や学習ガイダンス等を積極的に活用し、早い段階で学習習慣を身に付けさせる。更に、計画的に学力の伸長につながるように工夫する。 ・ 授業公開、研究協議、生徒による授業アンケート等を通じて、授業改善を行う。 ・ 日々の学習の記録を確認することで、家庭学習の習慣化を図る。充実した言語活動を伴う授業を行うことで、基礎基本を定着させ、発展性のある学力を身につけさせる。 ・ 校内外を問わず、様々な学習の場に生徒が参加し、学習意欲を高める機会を提供する。
生徒指導 (生徒指導部) (各学年会)	安心安全な学校生活に繋がる道徳意識の醸成	・ 規範意識と心豊かな人間性の涵養 ・ 交通安全意識の向上 ・ 自己防衛意識の向上に向けた啓発活動の展開 ・ いじめ、不登校の未然防止に向けた積極的な生徒指導と見逃さない集団作り	・ 日常的な指導での声かけを継続することにより様々な生徒の意識を高めさせる。 ・ 交通安全に関して、日常的な声かけや街頭指導を継続することで、生徒の意識を高めさせる。 ・ 不審者情報については、迅速に生徒に伝え、被害防止への行動を意識させる。 ・ 生徒等から日常生活の観察や保護者健康相談委員等との連携の取組も、全職員が状況を共有し、未然に対応できるようにする。
進路指導 (進路指導部) (各教科会) (各学年会)	生徒の希望進路の実現	・ 補習等の課外指導の充実 ・ 進路情報の分析検討と適切な提供	・ 生徒それぞれが学力を伸ばすことができるきめ細かい補習等の課外指導を目指す。 ・ 各大学の入学試験情報及び生徒の苦手科目、分野の分析し対応することにより生徒の進路希望の実現を後押しする。
保健指導 (保健部) (各学年会)	清掃美化活動への取組と相談活動の推進	・ 清掃活動の充実 ・ 相談活動の充実	・ 清掃美化活動に率先して取り組むことができるように努める。 ・ 健康観察等により、心身の変調に関する早期の相談活動に努める。
部活動 生徒会行事 (生徒会部) (各学年会)	学校行事の充実・発展と部活動における生徒の主体的活動の支援	・ 各委員会活動の活性化と執行委員との連携強化 ・ 部顧問間での意思統一と生徒への指導の充実	・ 委員会活動を重ねながら、生徒による決定を促し、生徒主体の行事づくりの環境を整える。 ・ 一宮西高等学校部活動活動方針に則り、部活動を円滑に運営する。部活動を通じて、感謝の心や規範意識を育て、人間性の向上に努める。
読書指導 (教務部) (各教科会) (各学年会)	積極的な図書館利用の推進	・ 生徒の読書推進 ・ 利用しやすい空間作り ・ 図書委員による図書館利用推進活動の充実	・ 「図書館だより」を効果的に活用し、読書意欲を喚起するとともに、古典的名作と現代作品をバランスよく紹介する。 ・ 照明や書架の配置を工夫することで利用しやすい空間作りを心掛ける。 ・ 企画展等を通じて広報活動を活発にし、図書館利用者の増加を図る。
グローバル教育 (国際部) (各教科会) (各学年会)	グローバル教育の推進	・ ICHINISHI国際理解プログラムのバランスのよい伸展 ・ 国際理解コースの充実 ・ 海外留学 ・ 国際交流	・ ICHINISHI国際理解プログラムという枠組みで、コースのみならず学校全体の国際理解教育を伸展させる。 ・ 学校主催の国際行事への参加を呼びかける。 ・ 提携校との交流や交流行事を通して異文化に触れる機会を提供する。
学校関係者評価 主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魅力ある教育活動の追求 ・ ICTを用いた教育活動の実践 		

イ 学校関係者評価結果等

<p>学校関係者評価を実施した主な評価項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 目指す西高生像・指導目標を共有する 2 西高のアイデンティティを大切にするとともに魅力アップを図る 3 「縮充」を組織的かつ個人のレベルでも進める
<p>自己評価結果について</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校評価アンケート結果より 生徒アンケートは全生徒を対象とし、集計は過年度比較ができるものとした。保護者アンケートはPTA役員とPTA理事（合計約100名）を対象とした。 (1) 本年度は保護者が校内へ立ち入ることができなかつたため、アンケートに分らないと答えた保護者が多かつた。学習指導・部活動・交通安全指導を高く評価している。 (2) 生徒は、交通安全や自己防衛意識の啓発を高く評価している。 (3) 西高入学・学校生活の楽しさについては、生徒より保護者の方が肯定感が強い。 (4) 授業の理解や家庭学習に関しては、逆に保護者より生徒の方が肯定感が強い。 (5) 8年前との比較では、学習指導の充実に関して保護者や生徒の数値が減少している。部活動の項目では逆に増加している。 2 その他 (1) 学習アンケートの結果を見ると、1・2年生は学習時間が例年より増加している (2) 「国際理解コース」1期生が卒業した。ZOOM会議で海外の学校との交流だけでなく、卒業生からZOOMでアドバイスするなど、学校内外の方々とのコミュニケーションを通して授業やグローバル人材を育成する土台が完成した。生徒も高い満足感を得ている。コース選択した生徒は、学習意欲の高い生徒が多かつた。
<p>今後の改善方策について</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 発展性のある学力の育成に向けて (1) 連帯感・信頼感は推進力になる。変わらぬ伝統継承の一方で、新学習指導要領や大学入試等の変化への対応が求められる時代である。対応状況の情報発信を忘れずに絶えず変化し続けなければいけない。 (2) 特色ある学校づくりと進学の両立は難しいだろうが、「西高」なのだから、卒業時も生徒の満足度が高くなるよう、国際理解コースも生徒が希望する大学への進学面のサポートは確実にしてほしい。
<p>その他(学校関係者評価委員会から出された主な意見、要望等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の趣旨に基づく教育活動の見直しを着々と進めてもらっている。教員志願者の減少が懸念されるが、西高での学びは10年先の教員の保障につながるので、しっかりと取り組んでほしい。 ・国際理解コースでは、海外とのZoom会議でしり込みしていた一年生が二年生になったら随分姿が変わっているという話を聞き安心した。 ・読書習慣はとても大切だと思う。図書館だけでなく図書の利用にも力を入れてほしい。 ・生徒は落ち着いており、規範意識も向上している。リーダーシップをとれる生徒の養成にも力を入れてほしい。 ・交通事故の加害もあるとのことで心配である。自転車保険には必ず入ってほしい。 ・10年前のこの評価委員会との話題の違いから、学校も生徒だけでなく、社会構造も変化していることを本日実感した。 ・社会構造や職業をはじめ時代は大きく変化している。自ら考えて動ける力を養成してほしい。
<p>学校関係者評価委員会の構成及び評価時期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・構成・・・学校評議員4名、PTA役員9名、学校3名 ・評価時期・・・令和3年2月12日(金)

(5) 経営管理上の問題点等

本校は、職員と生徒、保護者が一体となって築き上げてきた伝統を継承しながら、社会の変化に対応した学校づくりを目指してきた。特に進路指導においては、家庭と連携しながら、生徒一人一人の自己実現を図っている。しかし、以下に示すような施設、組織、指導の問題が生じてきている。

ア 施設・設備の問題点

耐震補強工事や小体育館跡地の整備も完了し、落ち着いた環境づくりができています。しかし、体育館の内壁面、通路の雨よけ、トイレなどに老朽化が進行しており、改修工事等が必要な現状である。

イ 組織上の問題点

ベテラン教員の退職や異動により若手教員が急増し、組織を支える有為な人材の育成が急務となっている。特に学年主任を中心とする学年団主導の指導体制を充実させ、各学年主任の特性が発揮しやすい体制を整えることで若手教員を育てていかなければならない。

ウ 指導上の問題点

(ア) 生徒の学習や生活のスタイルだけでなく、物事のとらえ方や関わり方への変化が顕著であり、基礎基本の充実と共に思考力・判断力・表現力の伸長が課題となっている。各教科で指導方法の見直しを検討していく必要がある。学びの手段として「主体的・対話的で深い学び」を意識した指導を各教科で実現していく必要がある。

(イ) 生徒一人一人に対応した進路指導のためには、長年蓄積された知識・経験と新しい入試制度に対応した進路指導の

確立が急務である。進路指導は3年間継続して行われなければならない。キャリア教育の視点から進路指導をする必要がある。生徒一人一人が高い目標を持ち(挑戦)、自らの力を伸ばし(努力・成長)、進路希望の実現(努力に見合う結果)を目指す。

- (ウ) 国の教育グローバル化の方針を受けて生徒の学びを深める取組が今後一層必要とされる。あいちスーパングリッ
シュハブスクール事業の取組、留学生の受入れ、本校生徒の留学など、ノウハウの蓄積が徐々にできつつある。それらを学校経営への生かし方を模索し続ける必要がある。
- (エ) 問題行動は少ないが、学校不適応の生徒、基本的な生活習慣の確立が不十分な生徒、規範意識の希薄な生徒が増えてきた。情報交換を密にし、生徒一人一人の理解に努め、カウンセリングの充実を図りながら、問題を抱える生徒の早期発見体制及び支援体制をより一層充実させていく。一人一人の生徒に寄り添う指導体制の確立が求められる。
- (オ) 70%以上の生徒が自転車通学であり、交通事故が懸念される。幸い生命に関わるような大事故は今のところ発生していないが、今後も地域や家庭との連携を取りつつ、交通安全指導の一層の強化に努めていく。また、自転車通学、電車通学ともに公共の場所におけるマナー向上は大きな課題である。